

# 立ち止まりたい場所 ～歩道を人の居場所に変える～

- ・体を動かすスペースとゆっくりくつろぐスペースの融合ができることを目指した
- ・信金前駐車場を活用し、ポッチャ・モルックの体験会場を開くことでイベントへの参加を促し、立ち止まるための場所の構築を行った
- ・屋根のあるスペースでは、ゆっくりくつろぐスペースとして、椅子の設置と飲み物を飲むことができる空間の形成を目指した

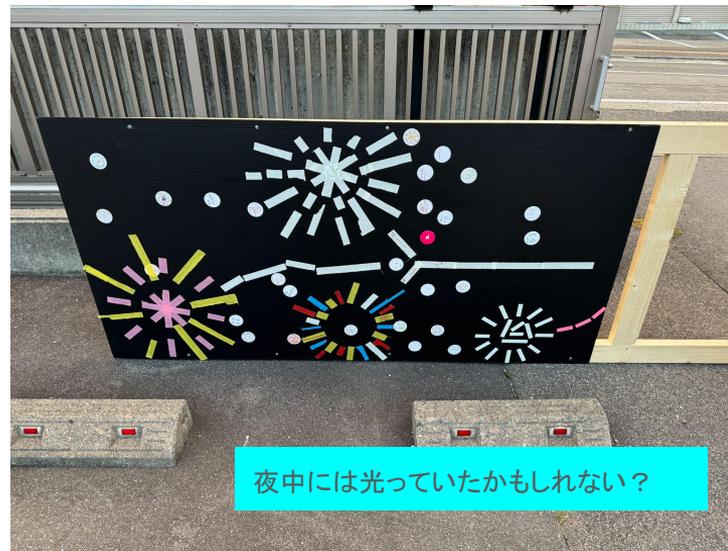
# ①当日の感想(良かった点)

- ・信金前駐車場で屋根があったことにより日差しを避けてくつろぐスペースを設けることができた。
- ・ほぼポッチャのみでスポーツ部門を行ったが、童画館通りを通行する人々が興味を持ち、立ち寄ってくれる機会が多かった。
- ・岡谷駅側から信金前交差点まで足跡シールを貼ったことで、迎る行為や足跡シールに沿ってジャンプしている子供が多く見受けられた。
- ・垂直飛び板は、花火をイメージしてテープを貼ったり白丸シールを貼ってもらったりすることで、当日別開催していたMIX Okaya Art Festivalと結果的にコラボ作品となった。
- ・白丸シールで花火を作ろうという当初目的が、途中で願掛けにもなって活用性の多様さに驚いた。
- ・ふれあいホール前のベンチに座ってくつろいでいる中学生？高校生？がいた。ベンチに座って目の前の足跡シールの写真をとっている様子があった。



## ②当日の感想(反省点・改善点)

- ・ポッチャなどの体験型アクティビティを行うことで通りよりも駐車場の敷地がメインになった結果となった。
- ・砂が多い場所では、足跡シールの粘着力がやや弱く、何組か外れてしまい車道に飛んでいたのが危険な面があった。
- ・垂直跳びについて、測定板に目盛りを書き入れることができず、ただの物置となってしまった。結果的にはアート作品っぽく仕上がったので良かったが、別のイベントが開催されていなければ、板だけ孤立しているようなイメージがあった。
- ・蓄光テープを使っていたが、暗いところではどう見えるのか分からず片付けてしまった。
- ・人数不足、状況写真を取り損ねていた。
- ・9月とは思えない気温で、暑さへの対処が今一つだった。
- ・信金前駐車場を目的外かつ無断で使用している人がいた。



夜中には光っていたかもしれない？

### ③童画館通りの今後の展望

※今後、童画館通りがどのような場所になると良いか

・インターロッキングブロックにより黒補装に比べカラフルに見えるが、童画館通りの名の通りアートチックな物があっても良いのではないか。

例：歩道上に貼った足跡シールのように実際にデザインとして足跡を付ける

・屋根を設けて日差しの退避所を作ること、駅からイルプラザや中心市街地への徒歩アクセスの利便性の向上につながるのではないか。（上空には武井武雄作品があるので、その魅力を減少させてしまうかもしれない）

・下諏訪町の湖畔通りのようなストレッチを行う施設が点在しているエリアのように、童画館通りにもBチームのような路面を活用したオセロや、アクティビティができそうなエリアの常設ができれば良いのではないか

↓下諏訪町みずべ公園付近



## ④パークデザインラボ全体を通して感じた事

- ・まちづくり、特にDIYの楽しさを知ることができた。
- ・限られた予算の中で実施することの難しさを痛感した。
- ・歩道空間の有効活用を目指す活動であるが、アクティビティをするとなるとある程度広い空間が必要になるし、単に椅子だけ歩道上に置いていてもあまり効果は見込めないなので、空間活用の難しさを知ることができた。
- ・既存の設備(ベンチなど)に何か1要素を加えることで、その場に留まる動機付けになり得るということが分かった。今回の1要素は足跡シール。
- ・何気なく通っていた道でも、まちづくりの視点で見ると初めて気づくことがあった。  
人によって感じ方やアイデアが様々であることを実感した。  
PDLを通じて、新たな出会いができたのがよかった。

